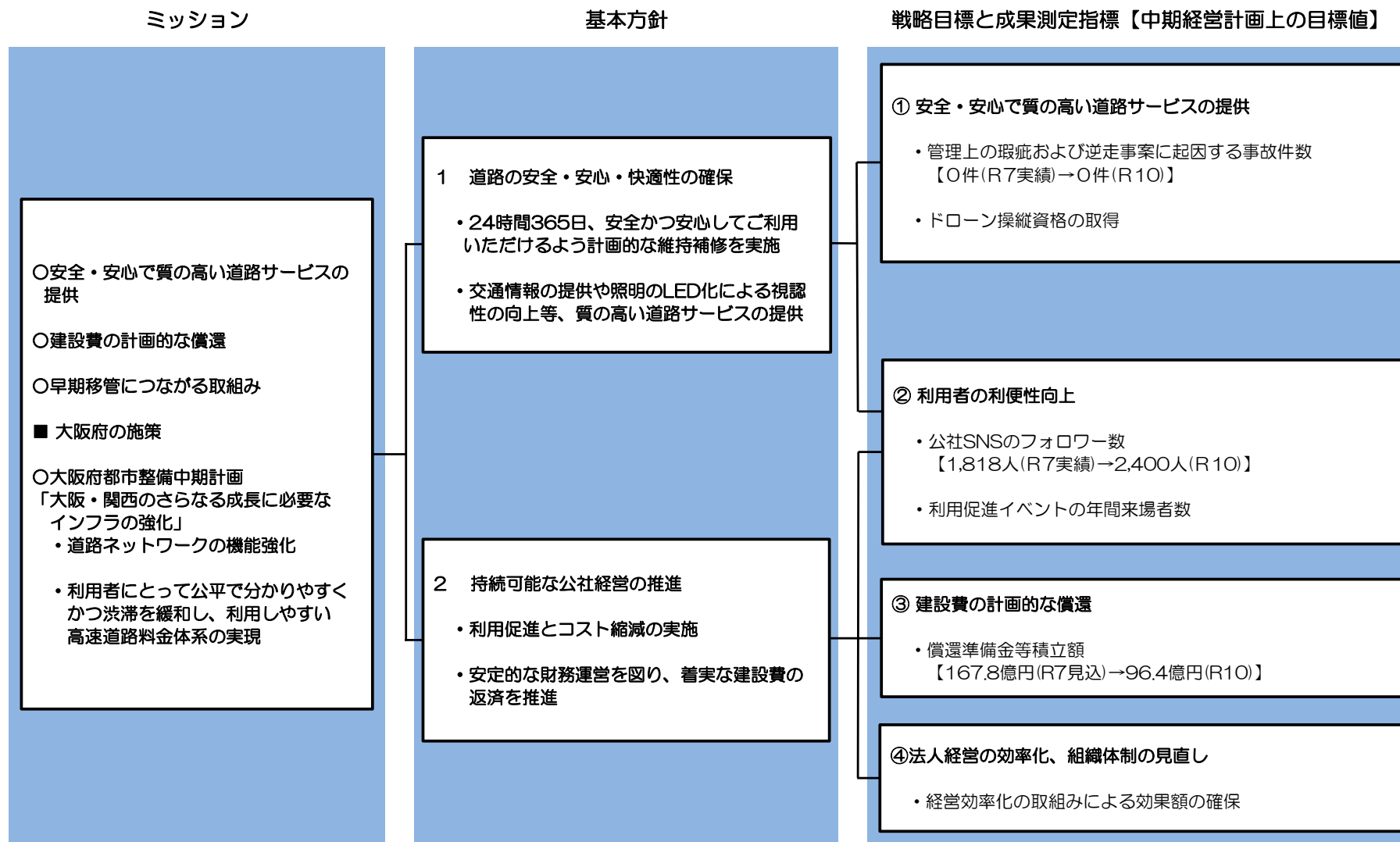


法人名	大阪府道路公社
作成(所管課)	都市整備部道路室道路整備課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	大阪府道路公社
-----	---------

○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)														
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6実績値	R7目標値	R7実績値 [見込値]	R7ウェイト	R7得点	R8目標値	R8ウェイト	中期経営計画 (R8~R10)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
											R8目標値	最終年度 目標値		
③ 建設費の計画的な償還	償還準備金等積立額		億円	164.5	164.6	[167.8]	45	45	↓156.6	40	156.6	96.4	継続2路線(鳥飼仁和寺大橋有料道路、箕面有料道路)のR8年度の料金収入、道路管理費等の費用見直しに基づき算定。 なお、中期経営計画(R8~R10)の最終年度目標値は、鳥飼仁和寺大橋有料道路がR9年2月に料金徴収期間満了を迎えるため、箕面有料道路のみの数値。	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項			
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路公社は、道路公社及びひ有料道路制度を定めた道路整備特別措置法等の根拠法令に基づき、府議会の議決を経て道路管理者である大阪府知事の同意及び国土交通大臣の許可を得た事業計画によって、事業を実施しており、安全・安心で利便性の高い道路サービスを提供することを第一に、建設費を収益と費用の差額によって償還していくことを経営の基本とし、料金徴収期間が終了した時点で、道路管理者に引き継いでいく。 ○ 従って、建設費を着実に償還することが道路公社における事業の根幹であり、総合的な指標である「建設費の計画的な償還(償還準備金等積立額)」を最重点の経営目標とする。 											<p>中期経営計画(2026~2028)に基づき、下記の行動計画を策定し、道路サービスの向上と、経営改善に取り組む。</p> <p>I. 道路の安全・安心・快適性の確保</p> <p>1 計画的な点検や維持補修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼仁和寺大橋有料道路の計画的な点検・補修と橋梁耐震補強工事完了 ・箕面有料道路の電気機械設備の更新と橋梁等の計画的な点検・補修 ・管理する2路線の日常/パトロールや清掃などの維持管理 <p>2 お客様が快適にご利用できる道路サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した情報発信の充実や通行止めに関する事前周知 ・案内標識の設置による安全性の向上や交通の円滑化、照明のLED化による視認性の向上 <p>3 誤進入(逆走)対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標識の追加や路面標示の改善 <p>4 防災訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震訓練やトンネル事故を想定した訓練の実施 <p>5 箕面有料道路のAIカメラ導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆走や歩行者の誤進入といった重大事故につながる事象を即時検知 <p>6 鳥飼仁和寺大橋有料道路の大阪府への引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋の調査、補修および補強 ・料金所などの有料道路関連施設の撤去 <p>7 箕面有料道路のETC専用化を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2030年度頃のETC専用化に向けた取組み ・大阪府とともに料金体系一元化の実現に向けた高速道路会社への早期移管に関する取組みの検討 <p>II. 持続可能な公社経営の推進</p> <p>8 知名度向上・利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町・郵便局、観光協会や物流業界などと連携した地域交流イベントへの参加 ・SNSを活用した広報・PR活動による知名度向上 <p>9 コスト縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンネル照明のLED化による使用電力量削減 ・組織体制の再構築や職員数の適正化、本社機能の在り方を検討 <p>10 建設費返済の着実な実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進とコスト縮減に取り組み、安定的な財務運営を図る 		
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近年の電力費や建設資材・労務費の高騰により、多大なコストが見込まれるため、責任ある道路の維持管理(道路施設や設備の定期的な点検、補修や更新などの対策)の優先順位を見極めながら、効率的・効果的な維持管理を行う必要がある。 ○ 箕面有料道路は供用19年目を迎え、電気・機械設備の老朽化が進んでおり、設備更新を計画的に行っていくことが不可欠である。 ○ 国の将来予測では、自動車交通量(走行台・キロ)は減少傾向にある中で、更なる通行料金収入の確保が必要となる。 													
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ R8年3月に策定した「中期経営計画(2026~2028)」に基づき、以下の活動方針に関する取組みを行う。 <p>1 道路の安全・安心・快適性の確保</p> <p>お客様に、24時間365日、安全で安心してご利用いただけるよう地震や事故を想定した訓練を引き続き行うことはもとより、計画的な維持補修や更なる誤進入(逆走)防止対策を実施するとともに、SNSを活用した交通情報の発信や照明のLED化による視認性の向上など、質の高い道路サービスの提供に取り組む。</p> <p>2 持続可能な公社経営の推進</p> <p>SNSを活用した情報を引き続き発信し、更なる利用促進および知名度向上に取り組み、1人でも多くの利用者に通行経路として繰り返し選んでいただけるよう観光協会や近隣市町などと連携したイベントに参加する。</p> <p>また、コスト縮減については、箕面有料道路のトンネル照明LED化を推進し、使用電力量の削減や長寿命化修繕計画の策定およびDXの推進による維持管理費の抑制、2027年2月には鳥飼仁和寺大橋有料道路の料金徴収期間満了を迎えることから、組織体制の見直しや職員定数の適正化、本社機能の在り方について、検討を行う。</p> <p>引き続き、利用促進とコスト縮減に取り組み、安定的な財務運営を図ることで、着実な建設費の返済に取り組む。</p>													

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6実績値	R7目標値	R7実績値 〔見込値〕	R7ウエイト	R7得点	R8目標値	R8ウエイト	中期経営計画 (R8~R10)		R8目標設定の考え方 (数値の概観) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8目標値	最終年度 目標値		
安全・安心で快適な道路サービスの提供	管理上の瑕疵に起因する事故件数		件	0	0	0	10	10	-	-	-	-	-	-
① 安全・安心で質の高い道路サービスの提供	管理上の瑕疵および逆走事案に起因する事故件数	☆	件	(0)	-	(0)	-	-	0	20	0	0	舗装の劣化、路上障害物、雪氷、安全施設損傷等の管理瑕疵に起因する事故発生防止のため、24時間365日の交通管理/パトロールに加え、公社職員による施設・設備の点検を実施する。さらに、案内標識の追加設置や路面標示の補修など、更なる誤進入対策を講ずることにより、事故発生ゼロを目標とする。	道路の安全・安心・快適性を確保するため、パトロール実施などにより、絶えず管理瑕疵および逆走事案に起因する事故の発生防止を図る。道路構造物を常に良好な状態に保全し、構造物等施設点検の充実を図る。誤進入対策として、交通管理者である警察と接続する国道423号の道路管理者である大阪府池田土木事務所と協議・調整を行い、案内標識の追加設置及び路面標示の補修を実施する。
	ドローン操縦資格の取得	☆	人	(0)	-	(0)	-	-	3	10	-	-	ドローンを活用して道路のり面および道路構造物の定期・緊急点検を実施するため、箕面管理事務所の半数以上(事務所職員は5人)が資格の取得を目指す。	高所や急こう配など直接点検が困難な箇所では、ドローンを用いて異常を早期に発見し、現地の状況に応じた補修を行うことで、安全・安心の確保に努める。複数名が資格を取得することで、地震発生時の規制解除までの時間短縮に取り組む。
利用者の利便性向上	鳥飼仁和寺大橋有料道路のネットワーク型ETC利用率 (各年度3月の1か月間における平均利用率)		%	19.6	30.0	×20.2	10	0	-	-	-	-	-	-
	利用促進策等の効果的な情報発信		項目	7	8	8	10	10	-	-	-	-	-	-
② 利用者の利便性向上	公社SNSのフォロワー数		人	992	1,500	1,818	5	5	2,000	5	-	2,400	X・Instagramを活用して各路線の知名度向上、利用促進を図るとともに、交通状況や通行規制情報を即時発信することで利用者に対して迅速に情報提供を行うため、令和9年3月末時点の両フォロワー数合計を前年度実績の約1.1倍の人数に設定。 道路公社SNS X: @osakadourosya Instagram: @osakadourosya	X・Instagramにおいて、管理2路線の知名度向上、利用促進につながる魅力的な情報発信を定期的に行うとともに、交通状況及び通行規制情報を適時・的確に発信し、フォロワー数を増やす。
	利用促進イベントの年間来場者数	☆	人	(1,919)	-	(1,827)	-	-	2,000	5	-	-	利用者に通行経路の一つとして選択いただけるよう、地元イベント等へ参加し、利用促進及び知名度向上の広報を実施することを踏まえ、前年度実績の約1.1倍の来場者を設定。	イベント来場者数の半数が公社管理路線を利用したことがない、もしくは知らないことから、利用促進および知名度向上を行い、1人でも多くの利用者に新たな通行経路として認知し、選んでいただけるよう取り組む。 ※単に当会社のブースを訪れただけでなく、アンケート調査にご協力いただいた方や当会社のブース内で実施の各種イベントに参加いただいた方を来場者数としてカウント。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

法人経営の効率化、組織体制の見直し	コスト縮減額		百万円	17	26	[26.9]	10	10	-	-	-	-	-	-
	新たな収入の確保		百万円	-	2	[2.0]	10	10	-	-	-	-	-	-
④ 法人経営の効率化、組織体制の見直し	経営効率化の取組みによる効果額の確保	☆	千円	-	-	-	-	-	3,900	20	-	-	DXの推進を踏まえた点検方法の見直しによる点検コスト削減や一般管理費の管理諸費における旅費や光熱費、消耗品費などの抑制を行うとともに、収入確保に努める。	遠隔臨場による工場検査の実施や、各種会議ではペーパーレス化を徹底するとともに、箕面のトンネル点検には走行型トンネル点検車を導入し、点検費用の削減に取り組む。さらに、自動販売機設置などによる収入の確保に取り組む。

R7得点合計
〔見込得点合計〕

〔90〕

【凡例】

- ・☆はR8年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

大阪府道路公社

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者調査アンケート	各種イベント参加者へ依頼 SNS閲覧者へ依頼	箕面有料道路の利用者	スクリーニング調査回収数:493サンプル 本調査回収数:258サンプル	令和7年7月～令和8年3月

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>【箕面(令和7年度実施)】 総合的な満足度(R5:普通以上91.9%→R7:普通以上97.7%) ・十分に満足:95人(36.8%) やや満足:89人(34.5%) ・普通:68人(26.4%) やや不満:5人(1.9%) ・非常に不満:0人(0%) わからない:1人(0.4%)</p> <p>利用者の意見 ・便利(時間短縮)、走りやすい、京都亀岡方面への通行ルートとして便利 ・通行料金の減額要望あり</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組) ・京都亀岡方面からの通行ルートとしての利便性をSNSやイベントでのチラシ配布などでの情報発信を実施</p> <p>(今後実施予定の取組) ・引き続き、安全で利用しやすい道路を目指すとともに、アンケート回答者の約半数が箕面有料道路を利用したことがない、または知らないと回答されていることから利用促進及び知名度向上に資する情報発信を行う</p>

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者調査アンケート	各種イベント参加者へ依頼 SNS閲覧者へ依頼	箕面有料道路の利用者	800サンプル	令和8年7月～令和9年3月

■ 目標値未達成の要因について

法人名	大阪府道路公社
-----	---------

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
鳥飼仁和寺大橋有料道路のネットワーク型ETC利用率 (各年度3月の1か月間における平均利用率)	%	30.0	20.2	△ 9.8

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応	
①	ETCXを利用するメリットが十分に実感されなかったこと			ETCXは利便性向上を目的に導入し、広報・PR活動等で利用のきっかけづくりに取り組んだものの、ETCXの利便性が利用者に十分に浸透せず、目標値を下回る結果となった。						鳥飼仁和寺大橋有料道路は、R9年2月27日に料金徴収期間満了を予定しているため、R8年度はETCX利用率を成果測定指標に設定しない。引き続き、無料開放後も安全にご利用いただけるよう、有料道路関連施設の撤去等の必要な措置を講じていく。	
	関連項目名	-	単位	-	R7当初想定値	-	R7実績値	-	差		

■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

[1]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
管理上の瑕疵に起因する事故件数	件	0

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
管理上の瑕疵および逆走事案に起因する事故件数	件	0

成果測定指標の変更(廃止)を希望する理由	<p>R8年度からの中期経営計画では、「道路の安全・安心・快適性の確保」を基本方針の二つの柱の一つとして掲げている。</p> <p>近年、高速道路においては、高齢者や外国人ドライバーによる逆走事案が増加していることから、当公社としても誤進入(逆走)対策を一層強化していく必要があり、逆走事案に起因する事故件数を、新たに指標として変更追加したい。</p>
-----------------------------	--

[2]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
鳥飼仁和寺大橋有料道路のネットワーク型ETC利用率 (各年度3月の1か月間における平均利用率)	%	30.0

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
ドローン操縦資格の取得	人	3

成果測定指標の変更(廃止)を希望する理由	<p>「②利用者の利便性向上」の成果測定指標について、「鳥飼仁和寺大橋有料道路のネットワーク型ETC利用率(各年度3月の1か月間における平均利用率)」については、鳥飼仁和寺大橋有料道路がR9年2月に料金徴収期間満了を迎える。</p> <p>このため、「①安全・安心で質の高い道路サービスの提供」の成果測定指標で、当公社が引き続き管理する箕面有料道路の高所・急こう配など直接点検が困難な箇所におけるドローン活用や、災害発生時の迅速な状況把握・早期規制解除を実現するため、「ドローン操縦資格の取得」で取得人数に関する数値目標に変更したい。</p>
-----------------------------	---

■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

[3]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
利用促進策の効果的な 情報発信	項目	8

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
利用促進イベントの年間 来場者数	人	2,000

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	「②利用者の利便性向上」の成果測定指標について、利用促進施策の実施効果を定量的に把握するため、従来の「利用促進策の効果的な情報発信」という指標を、「利用促進イベントの年間来場者数」という数値目標に変更したい。
---------------------------------------	--

[4]

●変更前

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
①コスト縮減額	百万円	26
②新たな収入の確保		2

●変更後

R8年度の 成果測定指標	単位	R8年度の 目標値
経営効率化の取組みに よる効果額の確保	千円	3,900

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	「④法人経営の効率化、組織体制の見直し」の成果測定指標である「コスト縮減額」については、R7年度までは、これまでの中期経営計画(～2025年度)で取組を実施しない場合と比較した効果額をコスト縮減額としていた。 また、「新たな収入の確保」については、R7年度から道路公社所有地への自動販売機設置者の公募などを行い、収入確保に取り組んできた。 R8年度からは、コスト縮減額と収入確保を合わせた「経営効率化の取組みによる効果額の確保」という指標へ変更し、コスト縮減額分については、R7年度との比較に基づいて算定し、新たな収入確保分については、道路公社所有地への自動販売機設置などによる業務外収入で算定する。
---------------------------------------	--

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値
償還準備金等積立額	億円	[167.8]	156.6

マイナス (現状維持) 目標の考え方	R7年度よりもR8年度の償還準備金等積立額が減少するのは、老朽化が著しい箕面有料道路の監視制御設備や防災設備などの更新をR8年度に行う必要があり、道路管理費等が一時的に増加するため、その財源として償還準備金を充当して対応することによるもの。
--------------------------	--

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値[見込値]	R8年度の目標値

マイナス (現状維持) 目標の考え方	
--------------------------	--